

平成 22 年度科学研究費補助金 「基盤研究 B 〈海外学術調査〉」

—— 研究課題：

アメリカ収蔵「書跡」の基礎データ収集と整理のための調査研究

河 内 利 治 (君 平) 安 達 直 哉

タ台帳」を作成する。

上記の「基礎データ台帳」を作成しながら、実際に渡米し、各博物館・美術館等を回り、海外学術調査を行う。同時に機会があれば、中国（台湾・香港・マカオを含む）の研究者と意見交換するため訪中、訪台する。

研究協力者として、以下の国内外の研究者から情報提供を得る。

ユキオ・リピット：Harvard University Associate Professor

張子寧（Joseph Chang）：Washington DC Freer Gallery Associate Curator

岡 みどり：Independent Curator（元Salem Peabody Essex Museum）

富田 淳：東京国立博物館学芸研究部調査研究課課長

高橋裕次：東京国立博物館学芸企画部博物館情報課課長

倉橋正恵：立命館大学衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー

また以下の大学院生に基礎データ台帳作成の協力を得る。

高田智仁：大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻博士後期課程、「日本書跡」担当

亀澤孝幸：大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻博士後期課程、「中国書跡」担当

3. 平成22年度の計画遂行

遂行した平成22年度の計画は次の通りである。

- ①学内科研会議
- ②アメリカ調査機関と調査書跡
- ③今年度購入図書一覧
- ④基礎データ台帳の作成

① 学内科研会議

合計10回、学内のメンバーで打ち合わせを行った。日時は次の通りである（予定を含む）。

- (1)平成22年4月6日(火)「第1回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (2)平成22年5月25日(火)「第2回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (3)平成22年6月29日(火)「第3回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (4)平成22年7月26日(月)「第4回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (5)平成22年8月31日(月)「第5回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (6)平成22年10月5日(火)「第6回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (7)平成22年11月9日(火)「第7回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

- (8)平成22年12月7日(火)「第8回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
(9)平成23年1月11日(火)「第9回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
(10)平成23年3月10日(木)「第10回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」予定

以下、各回の科研会議における議事録(抜粋)である。

- (1)4月6日(火)「第1回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：16:10-17:15 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 本年度渡米調査計画

- ・本年度の渡米は8月に1回のみ、河内・安達・高田・亀澤の4名で調査を行うことを決定し、スケジュールを検討した。
- ・ハーバード大学美術館およびフリーア・ギャラリーの所蔵品の中から調査希望書跡について検討。

2. 来年度以降の調査美術館候補の検討

インターネットにて公開されている情報をもとに、下記の美術館収蔵の日中書跡の明細を調査した結果、来年度以降の調査候補美術館として暫定的に下記を挙げる。

- ・中国書跡：Princeton University, Cleveland Museum of Art
- ・日本書跡：Philadelphia Museum of Art

3. 本年度研究協力者の確認

4. 今後の研究計画について、研究5年目にはインターネット上にデータを公開していくこと、また国内ではカタログ等からの情報収集を継続することを確認。

- (2)5月25日(火)「第2回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18:45-19:30 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 海外所蔵書跡目録調査海外所蔵の書跡について、刊行されたカタログの情報収集を進め、国内で閲覧可能なカタログをリスト化することを決定。

2. 本年度研究計画方針の確認

3. 今年度渡米計画

前回検討した日程をベースに調整を進めることを確認。

4. 今年度調査書跡の選定

- ①ハーバード大学美術館：日本書跡＝15点／中国書跡＝5点
- ②フリーア・ギャラリー：日本書跡＝10点／中国書跡＝10点

(3)6月29日(火)「第3回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18:35－19:30 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 科学研究費補助金に係る説明会へ出席することを確認。
2. 今夏研究調査希望書跡リストを作成し、ハーバード大学美術館＝ユキオ・リビット氏、フリーア・ギャラリー＝スーザン女史に送付、先方の確認を待つ。
3. 8月アメリカ出張日程の再確認
4. 科研調査成果の公開方法の検討
他大学HPで公開されている科研調査報告の方法や形態を調査し、今後本研究の公開方法を検討するための参考とする。
5. アメリカ収蔵書跡関連図録の調査

(4)7月26日(月)「第4回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：10:00－11:00 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 科学研究費補助金に係る説明会の報告、科研補助金ルールの変更点を確認。
2. 関係機関の確認を得、今夏研究調査書跡リストを最終確定。
3. 科研調査成果の公開方法の検討
4. アメリカ収蔵書跡関連図録の調査・購入の報告
5. アメリカ出張への持参品の確認

(5)8月31日(月)「第5回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：10:00－11:00 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 今夏渡米調査データの整理と確認
報告書およびウェブ上での公開を視野に、今夏調査書跡の中から中国・日本それぞれ10点の画像を選定することを決定。

2. 備品の補給

画像データ保存のためのMemory Stick等を研究費より追加購入することを決定。

3. アメリカ収蔵書跡関連図録の調査・購入の報告

(6)10月5日(火)「第6回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18:45 - 19:45 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 今期調査データの整理

- ・Excelファイルへのデータ入力を完了。
- ・『大東書道研究』に掲載予定の報告書について、今年度は作品の一点一点について短い解説を加えることとする（河内・安達）。
- ・調査報告のウェブ上での公開について、学務と折衝する（河内）。

2. アメリカ収蔵書跡関連図録の調査・購入の報告

3. 2011年度渡米調査日程の検討

フミコ・克蘭ストンさんより電話があり、来年のハーバード大学美術館での調査日程は8月20日以降と申し合わせたことに従って、暫定的日程を検討した。

(7)11月9日(火)「第7回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：19:00 - 19:30 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 今期調査データの整理

調査報告書およびウェブ上で画像の公開を視野に、今期調査分より日本書跡・中国書跡それぞれ10点の選定を完了。

2. 調査報告のウェブ上での公開について

- ・河内が学務課ならびに入試広報課に問い合わせた結果、「特定の科研のみで行うことは難しく、学内の科研全体でそのようなことを検討する必要があるのではないか」との回答があった。今後とも関係者と話し合い、検討を続ける。
- ・他大学で科研の研究成果をウェブ上で公開している例がないかリサーチする（高田・亀澤）。

3. 2011年度渡米調査日程について

先月暫定的に決めた渡米スケジュール案を、克蘭ストンさん、リピットさんに打診する（河内）。

4. 予算の執行状況の確認

(8)平成22年12月7日(火)「第8回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18:30 - 19:30 場所：安達研究室

出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 来年度調査渡米日程

現地研究協力者とスケジュールの調整の結果、以下のように変更する。

8月22日(月)出発／ワシントンDC着

8月23日(火)～24日(水)フリーア・ギャラリー調査（ワシントンDC）／夕方、ボストンへ移動

8月25日(木)～26日(金)ハーバード大学美術館調査（ボストン）

※克蘭ストンさんは8月25日(木)のみ調査にご協力いただける。

8月27日(土)ボストン美術館見学

8月28日(日)ボストン出発

8月29日(月)帰国

2. アメリカ収蔵書跡関連図録の調査・購入の報告

3. 調査報告のウェブ上での公開について

- ・学務課HP担当者より個別対応は「不可」との回答。
- ・今年度中をめどに大学HPに科研のページを設ける予定であるが、一覧のみで詳細な報告等を掲載する予定はないとのこと。
- ・大学院書道学専攻HPや個人HPでの対応について検討を続ける。

4. 予算執行状況の確認

カメラ画像のひずみがあるため、別カメラの購入を検討（安達）。

5. 本年度報告書の執筆分担を決定

(9)平成23年1月11日(火)「第9回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

1. 2010年度報告書原稿の確認

分担執筆した報告書全体を合わせ、体裁、表記の統一および修正、追加事項を確認。

2. 予算執行状況の確認

現時点での残額および今年度予算支出締切日を学務課に確認。

(10)平成23年3月10日(木)「第10回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」予定

1. 来年度の渡米計画について
2. 来年度の会議日程について

② アメリカ調査機関と調査書跡

今年度のアメリカにおける調査機関、月日、調査点数、現地での調査協力者を順に示すとの通りである。

(1)ボストン／ハーバード大学美術館：8月2日(月)・3日(火)

「日本書跡」15点調査／「中国書跡」6点調査

リビット・ユキオ（研究協力者）、フミコ・克蘭ストン、メリッサ・モイ

(2)ボストン／バーネット&ブルート・コレクション：8月4日(水)

「日本書跡」10点調査／「中国書跡」1点調査

リビット・ユキオ（研究協力者）、フミコ・克蘭ストン

(3)ワシントンDC／フリーア・ギャラリー：8月5日(木)・6日(金)

「日本書跡」10点調査／「中国書跡」5点調査

ジョセフ・チャン（研究協力者）、スーザン・キトリス、ジョン・ワン

③ 今年度購入図書一覧

(1) John M. Rosenfield, *Extraordinary Persons: Works by Eccentric, Non-Conformist Japanese Artists of the Early Modern Era in the Collection of Kimiko & John Powers*, Harvard University Press, 1998. (『近世畸人の芸術』)

(2) John M. Rosenfield and Shujiro Shimada eds., *Traditions of Japanese Art: Selections from the Kimiko and John Powers Collection*, Harvard University Press, 1970.

(3) 翁萬戈編『美国顧洛阜藏中国歴代書画名迹精選』(Wan-go Weng ed., *Selections from the John M. Crawford, Jr. Collection*) 上海人民美術出版社, 2009.

(4) *Eugene and Agnes E. Meyer Memorial Exhibition*, Freer Gallery of Art, 1971.

(5) Shen Fu, Glenn D. Lowey and Ann Yonemura eds., *From Concept to Context: Approaches to Asian and Islamic Calligraphy*, Freer Gallery of Art, 1986.

(6) 〇傳申・中田勇次郎編『欧米収蔵中国法書名蹟』全4冊

(7) John M. Rosenfield, Fumiko E. Cranston, Edwin A. Cranston eds., *The Courtly Tradition in Japanese Art and Literature: Selections from the Hofer and Hyde Collections*, Fogg Art Museum, Harvard University, 1973.

※○を付したものは科研費より購入したことを示す。

④ 基礎データ台帳の作成

画像を取り込んだ、ファイルメーカー作成の基礎台帳に入力を継続して行った。以下にエクセルに変換した書跡を提示する。

【凡例】

- (1) 表記順序は、①NO、②分類番号、③書写年代、④筆者、⑤作品名、⑥員数、⑦形状、⑧品質、⑨本紙法量の順とした。
- (2) NO欄の「H101-C001」について、Hはハーバード大学美術館、Bはバーネット&ブルート・コレクション、Fはフリーア・ギャラリー、10は2010年度、1は年度内第1回調査、Cは中国書跡、Jは日本書跡を示す。
- (3) 分類番号は、各所蔵機関の番号をそのまま転記した。
- (4) 時代については、書写年月がわかるもの、あるいは書写の世紀がわかるものは時代表記の後に記した。
- (5) 作品名は各所蔵者の付した名称によったが、一部変更したものもある。
- (6) 本紙の法量は縦×横とし、cmを省略した。また第1紙のみ計測した場合は①23.7*52.5のように記した。
- (7) 筆者名や作品名には原則として常用漢字を用いた。
- (8) ペア（上下・対幅など）またはセット（組）は1点として数える。（網掛け書跡）

(1)ハーバード大学美術館：「日本書跡」15点／「中国書跡」6点

ハーバード大学美術館蔵「日本書跡」について

本年度よりハーバード大学サックラー美術館において調査が許可され、日本書跡は15点のデータの採取と写真撮影を行なった。時代別では、奈良時代1点、平安時代5点、鎌倉時代8点、室町時代1点となる。

1、隅寺心経

空海筆という伝承があるが、実際は奈良時代の写経である。下部にしみがあるが、全体としては保存良好である。

2、山城切

『和漢朗詠集』の一部で、「庚申」の題に続いて4行が残存し、朱の訓点もみられる。

3、三宝絵詞断簡

未表具ではあるが、もと粘葉装の冊子の見開き1枚分で、雲母摺りの唐紙に端正な筆致で書かれている。東大寺切とも呼ばれるものの一部である。なお日本国内に残る同じ切に巻末部分があり、そこに保安元年（1120）の年号がみられることが知られている。

4、薬師経

銀の鳥や花の下絵に薬師経を写したもので、平安時代末期の装飾経の典型である。ただし、水にぬれたらしく波打っており、しみも多数見られるので、修理が必要と思われる。

5、装飾法華経断簡

金銀箔を散らした料紙に法華経薬王菩薩本事品の本文末尾と尾題併せて20行の断簡である。前項の「薬師経」とほぼ同時期の作成になろう。

6、石山切伊勢集

銀の鳥を描いた料紙に「このきさいの宮」以下8行の断簡である。

7、明月記

9月1日から30日までの記事を取め、藤原定家の晩年の特徴ある筆致で書かれている。ただし紙継ぎの部分でつながらない個所があるのが惜しまれる。内容等からみて嘉禄2年（1226）の巻であると推定できる。

8、春日本万葉集断簡

現在の表は万葉集の断簡3枚分で、紙背には春日懷紙3枚分が遺されている。懷紙の筆者は助時、中臣祐定、助泰の3名である。春日懷紙は、春日社周辺の神官・僧侶が詠んだ和歌懷紙で、当時の南都歌壇の具体相を窺わせる好資料とされる。春日本万葉集は、春日若宮社神主の中臣祐定が寛元元年（1243）から2年にかけて書写した重要な写本である。ただし、この3枚のうちの1枚は懷紙面の鑑賞のため本文が削除されている。一昨年石川県立歴史博物館蔵のツレが重要文化財に指定された。

9、古今和歌集恋歌

金銀泥下絵に『古今集』の中の恋歌を書いたもの。

10、貞永元年八月十五夜歌合

奥書はないものの鎌倉時代の写本として貴重である。藤原為家筆と伝えるが確証はない。

11、三首和歌

前項と同じく藤原為家筆とされるが不詳。

12、古今和歌集

『古今集』上下2冊の完本である。伏見院の筆とする尊道法親王の奥書があるが未詳。

13、諸徳三礼

世尊寺流の書で、箱書には世尊寺行房、巻子の外題には世尊寺行俊という筆者が記されるが、書風からみると行俊の時代に近い室町前期のものとみられる。

14、比丘尼信戒願文

「比丘尼信戒」と今まで読まれていたが、「信戒」と読んだ方がよいと思われる。奥書に尊純法親王が世尊寺行尹の筆と記すが、行尹の確実な筆跡が少なく断定するのは難しい。

15、私撰集断簡

冬の歌46首を収めているが、そのもとの私撰集の名は不明である。

ハーバード大学美術館：「日本書跡」15点

NO	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
H101-J001	1985.358	奈良 (8c)	伝空海	隅寺心経	1巻	卷子装	紙本墨書	25.5*42.4
H101-J002	1985.371	平安	伝藤原定頼	山城切	1幅	掛幅装	紙本墨書	26.1*11.3
H101-J003	1985.373	平安		三宝絵詞断簡	1葉	台紙貼	彩箋墨書	24.3*30.8
H101-J004	1984.564	平安	伝光明皇后	薬師経	1巻	卷子装	紙本墨書	②25.1*50.8
H101-J005	1977.202	平安		裝飾法華経断簡	1幅	掛幅装	彩箋墨書	25.0*44.0
H101-J006	1973.63	平安	伝紀貫之	石山切伊勢集	1葉	台紙貼	彩箋墨書	20.3*15.7
H101-J007	1977.203	鎌倉 (嘉禄2・1226)	藤原定家	明月記 九月大	1巻	卷子装	紙本墨書	②29.2*47.7
H101-J008	1974.83	鎌倉 (13c)	中臣祐定	春日日本万葉集断簡紙背：春日懷紙三枚	1巻	卷子装	紙本墨書	①28.3*43.0
H101-J009	1984.563	鎌倉	伝宗尊親王	古今和歌集恋歌	1巻	卷子装	彩箋墨書	②21.3*49.7
H101-J010	1985.390	鎌倉	伝藤原為家	貞永元年八月十五夜歌合	1巻	卷子装	紙本墨書	②29.0*48.3
H101-J011	1985.397	鎌倉	伝藤原為家	三首和歌	1幅	掛幅装	紙本墨書	15.5*14.3
H101-J012	1974.95	鎌倉	伝伏見天皇	古今和歌集	2冊	綴葉装	紙本墨書	17.3*16.2
H101-J013	1984.568	室町	伝世尊寺行俊	諸徳三礼	1巻	卷子装	彩箋墨書	①32.6*52.5
H101-J014	1984.555	鎌倉 (元応2・1320)	伝世尊寺行尹	比丘尼信戒願文	1巻	卷子装	彩箋墨書	②41.0*65.8
H101-J015	1985.396	鎌倉		私撰集断簡	1巻	卷子装	彩箋墨書	①28.2*46.3

今回の調査作品はいずれも戦後大学が受け入れたもので質の高いものばかりである。反町弘文荘から購入したことを示す印が捺されたものが多く見られたことも特記しておく。

ハーバード大学美術館蔵「中国書跡」について

1、北宋徽宗七言聯句团扇

書と画が表裏になっているという従來說と、そうではないという近年の異説がある。書画ともに見せてもらい、対句「瑞獸／佳人」という詩の内容からすると、瑞獸が見当たらない。梅樹を獸（竜）に見立てるといって、そう見えなくもないが不明である。

2、元陳汝秩跋文

許寧道の山水画に付された跋文のようである。書は顔法であるが素朴に見える。

3、隋写経

この写経は一見可愛く見える。それは無技法とは言はないが、木簡のような味わいがあるからであろう。特に筆を全開してグッと一気に押し付けた感じがするのが特殊である。

4、明陳献章詩幅

明初期にも2尺×8尺ぐらいの条幅がある。これはその一つで「茅（ちがや）筆」で書かれたと言われ、点画中にカスレが多く、飛白書のような味わいがある。

5・6、清康熙帝「柳賦」と清乾隆帝「彭城三詠用賀鑄韻」

康熙帝の米芾「柳賦」の臨書と落款にある。引首に黄紙に金竜を描いた黄色紙が使用されている。同時に一帙におさめられた乾隆帝の書（巻物）に比べると康熙帝の方が、筆力がある。

ハーバード大学美術館：「中国書跡」6点

NO	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
H101-C001	1978.58.2	北宋（12c前期）	徽宗（趙佶）	七言聯句团扇	1面	台紙貼	絹本墨書	25.0*23.8
H101-C002	1923.175.B	元（1355）	陳汝秩	許道寧峻峰茂林図跋	1枚	台紙貼	紙本墨書	22.0*29.2
H101-C003	1924.71	隋（608）	曹公義	金剛般若波羅蜜經巻第卅五	1巻	卷子装	紙本墨書	23.1*614.5
H101-C004	1985.936	明（1489）	陳献章	詩幅	1幅	掛幅装	紙本墨書	238.4*55.7
H101-C005	1985.917	清（1703以前）	康熙帝	臨米芾柳賦	1巻	卷子装	絹本墨書	35.7*278.4
H101-C006	1985.916	清	乾隆帝	彭城三詠用賀鑄韻	1巻	卷子装	紙本墨書	38.7*97.0

(2)バーネット&ブルート・コレクション：「日本書跡」10点／「中国書跡」1点

バーネット&ブルート・コレクション「日本書跡」について

初年度に引続き調査を行なった。内訳は平安時代1点、鎌倉時代6点、南北朝時代1点、江戸時代2点である。なお、この中で「後水尾天皇大字和歌」は再調査したもので、前回調査の番号B081-J007の作品と同一である。

1、後水尾天皇大字和歌

やや筆致が弱い印象を受けるが、今後とも検討していきたい。

2、雪村友梅七言絶句

「积雪村」の白文印を含め、雪村筆としてよい。

3、夢窓疎石書状

夢窓疎石が鎌倉幕府の諏方大進に宛てた古文書である。

4～6、松永本絵因果経断簡

収集家として知られた松永安左衛門旧蔵になり、ツレが福岡市美術館などにある。

7、本阿弥光悦色紙

やや筆致が弱い印象を受けるが、他の作品と比較したい。

8、大休正念息庵号偈

古くから名品として知られていたが、東京の梅沢記念館春季展に出品されたことがある。
また墨跡鑑定の第一人者である田山方南の箱書がある。

9、石山切伊勢集

重ね継ぎの部分が美しいことで知られ、以前出光美術館で展示された。

10、円尔弁円書状

鳥海青兒旧蔵になり、これも五島美術館の「手紙の名品特別展」に出品されていた。

バーネット&ブルート・コレクション：「日本書跡」10点

NO	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
B101-J001	なし	江戸	伝後水尾天皇	後水尾天皇大字和歌	1幅	掛幅装	紙本墨書	93.8*34.9
B101-J002	なし	南北朝（14c）	雪村友梅	雪村友梅七言絶句	1幅	掛幅装	紙本墨書	41.3*59.6
B101-J003	なし	鎌倉	夢窓疎石	夢窓疎石書状	1幅	掛幅装	紙本墨書	28.7*35.6
B101-J004	なし	鎌倉		松永本絵因果経断簡	1幅	掛幅装	紙本唐色	27.8*23.3
B101-J005	なし	鎌倉		松永本絵因果経断簡	1幅	掛幅装	紙本唐色	27.7*48.4
B101-J006	なし	鎌倉		松永本絵因果経断簡	1幅	掛幅装	紙本唐色	28.3*40.3
B101-J007	なし	江戸	本阿弥光悦	本阿弥光悦色紙	1幅	掛幅装	彩箋墨書	19.8*17.1
B101-J008	なし	鎌倉（正応2・1289）	大休正念	大休正念息庵号偈	1幅	掛幅装	紙本墨書	28.0*71.6
B101-J009	なし	平安		石山切伊勢集	1幅	掛幅装	彩箋墨書	20.2*16.0
B101-J010	なし	鎌倉	円尔弁円	円尔弁円書状	1幅	掛幅装	紙本墨書	29.2*69.3

バーネット&ブルート・コレクション「中国書跡」について

1、文徵明「小楷謝惠連雪賦冊」は冊頁形式である。訪問するのが3回目になるが、そのたびに見せて頂いている。縦横の罫線の中に整齊に納まっており、細楷の妙味が味わえる。

バーネット&ブルート・コレクション：「中国書跡」1点

NO	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
B101-C001	なし	明（1558）	文徵明	小楷謝惠連雪賦冊	1冊	折本装	紙本墨書	20.0*11.4

(3)フリーア・ギャラリー：「日本書跡」10点／「中国書跡」5点

フリーア・ギャラリー「日本書跡」について

昨年に続いてフリーア・ギャラリーで調査した日本書跡は10点である。そのうちいわゆる書跡に分類されるものは7点で、時代別では平安時代2点、江戸時代5点となる。また、絵画作品に墨書がみられるものは、鎌倉時代制作の「上疊本三十六歌仙絵」の断簡3点にお

いてである。

1、本阿弥光悦下絵和歌巻

蓮、竹や鶴などの金銀下絵の料紙に『古今集』の和歌を抜き書きした卷子1巻である。ただし、紙継ぎの前後に一部欠失がある。

2、本阿弥光悦書状

霜月二十七日付の書状も光悦自筆としてよい。

3、上置本三十六歌仙絵断簡 大中臣頼基

4、上置本三十六歌仙絵断簡 斎宮女御徽子

5、上置本三十六歌仙絵断簡 源公忠

いずれも大中臣頼基、斎宮女御徽子、源公忠の肖像の右に略歴や像主の詠んだ和歌が記されている。その文の筆者は不詳であるが、鎌倉時代初めの書風を伝えている。「上置本三十六歌仙絵」は佐竹本と並び称される三十六歌仙絵の優品で、国内では五島美術館所蔵の紀貫之像など8件が国の重要文化財に指定され、アメリカでもクリーブランド美術館に平兼盛像1幅が所蔵されている。

6、妙法蓮華経分別功德品

紺紙金字の本文をもち、軸首には徳川家の家紋である葵紋が見られる。ただし、フリーア・ギャラリーのホームページでは、徳川家光の供養のために1666年に制作されたとあるが、奥書はなく附属品等からも確認できなかった。

7、観普賢経

紺紙金字の本文を持つ平安末期の装飾経である。見返し絵には金泥で普賢菩薩が描かれている。

8、木庵性瑫偈語

黄檗山の木庵性瑫（1611～84）の墨跡で、庚戌（寛文10年、1670）の年紀がある。本文は「空生大覚中如海一漚発」^①で、「空」のみ大字で書かれている。前年紹介したのと同様なパネル状に装丁されている。

9、木庵性瑫一行書

「棟頭開正眼」と書かれている。雄渾な大字が好まれるのと戦後に購入するのに比較的手ごろな価格であったことから、アメリカの美術館では木庵性瑫の墨跡がよく見られる。

10、妙法蓮華経巻第七

平基親の発願によって制作された法華経のうちの1巻である。本文は紺紙金字で、末に治承4年（1180）7月28日に書写した旨の基親の奥書がある。同じ願経が東京国立博物館や

MOA美術館などに所蔵され、MOAの巻8は国の重要文化財に指定されている。

以上の書跡は、第二次世界大戦前では1903年と1907年に、戦後は1950年から80年までの間に館に入ったことがわかる。

フリーア・ギャラリー：「日本書跡」10点

NO	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
F101-J001	F1903.309	江戸	本阿弥光悦	本阿弥光悦下絵和歌巻	1巻	卷子装	彩箋墨書	③33.0*71.0
F101-J002	F1907.149	江戸	本阿弥光悦	本阿弥光悦書状	1幅	掛幅装	紙本墨書	14.1*60.2
F101-J003	F1950.23	鎌倉		上皇本三十六歌仙絵断簡 大中臣頼基	1幅	掛幅装	紙本着色	30.4*50.6
F101-J004	F1950.24	鎌倉		上皇本三十六歌仙絵断簡 斎宮女御	1幅	掛幅装	紙本着色	30.3*50.5
F101-J005	F1950.25	鎌倉		上皇本三十六人歌仙絵断簡 源公忠	1幅	掛幅装	紙本着色	30.2*50.6
F101-J006	F1962.27	江戸		妙法蓮華経 分別功德品	1巻	卷子装	紺紙金字	①21.3*46.1
F101-J007	F1968.60	平安		観音賢經	1巻	卷子装	紺紙金字	②25.5*51.2
F101-J008	F1975.19	江戸 (寛文10.1670)	木庵性瑠	木庵性瑠偈語	1面	パネル装	紙本墨書	25.8*55.6
F101-J009	F1980.195	江戸	木庵性瑠	木庵性瑠一行書	1幅	卷子装	紙本墨書	138.6*28.9
F101-J010	F1980.199	平安		妙法蓮華経 巻第七	1巻	卷子装	紺紙金字	26.0*51.3

フリーア・ギャラリー「中国書跡」について

1、東晋王献之「保母磚」巻

何度も見ているが、今回は磚（レンガ）の味わいを確認した。趙子昂と董其昌の跋文が並んでいる部分が妙所である。

2、隋「大般涅槃経迦葉菩薩品」巻

「一」字の終筆をピタッと止める美しい小楷。

3、唐懷素「聖母帖」巻：伝承筆者で集字の感あり。西安に石刻が現在するので有名だが、本書跡は八大山人が所有していた点が特殊の拓本である。

4、明文彭「草書崔曙詩」軸：父の文徵明とともどもフリーア・ギャラリーには「丈二（一丈二尺）」という大きな一枚の画仙紙を使用した書跡があり、文彭は大字草書の圧巻である。ちなみに文徵明は四行書の行書である。

5-1、5-2、5-3、5-4、5-5、宋拓『淳化閣帖』

第一冊・第三冊・第四冊・第五冊の各冊は、平成21年度夏に調査済みである。その折に展覧中であったものを含め、今回は第二冊（歴代名臣）、第六冊（王羲之）、第七冊（王羲之）、第八冊（王羲之）、第十冊（王献之）の五冊を調査した。なお第九冊は上海図書館蔵である。第十冊裏面に識語があるのを確認した。各冊上下の書き込みも素晴らしい。

フリーア・ギャラリー：「中国書跡」5点

NO	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
F101-C001	F1980.7	東晋 (365)	王献之	保母碑	1巻	卷子装	紙本墨拓	①30.9*29.4
F101-C002	F1982.2	隋	(不明)	大般涅槃經迦葉菩薩品	1巻	卷子装	紙本墨書	21.1*380.8
F101-C003	F1998.41	唐	懷素	聖母帖	1巻	卷子装	紙本墨拓	29.4*250.5
F101-C004	F1980.10	明 (16c前～中期)	文彭	草書崔曜詩軸	1幅	掛幅装	紙本墨書	357.0*103.2
F101-C005-1	F1980.202b	宋 (12c)	歴代名臣	宋拓「淳化閣帖」第二冊	1冊	折本装	紙本墨拓	縦25.5
F101-C005-2	F1980.202f	宋 (12c)	王羲之	宋拓「淳化閣帖」第六冊	1冊	折本装	紙本墨拓	縦25.5

4、おわりに

本年度は五年計画の三年目の調査研究である。アメリカ調査に一回四人全員で出張することができた。無事に調査が終了できたことを先ずは多としたい。しかしボストン美術館から調査お断りの連絡があり、調査の継続が不可能となったことは残念であった。また研究協力者のジョセフ氏が移動され、フリーア・ギャラリーで再会できなくなったことは寂しい限りである。

本報告から、各書跡についての簡単なコメントを付すことにした。一覧表だけでは書跡の実態が伝わり難いと判断したためである。中国を河内、日本を安達が担当した。

一昨年度、昨年度からの継続で、基礎データ台帳の作成に着手し、本年度は「日本書跡」35点、「中国書跡」12点、総計47点の調査成果をあげることができた^②。その成果は、特にハーバード大学のリビット、フミコ・クランストン、ハーバード大学美術館のメルシア・モイ (Cunningham Assistant Curator)、そしてフリーア・ギャラリーのスーザン、ジョン各氏の絶大なるご協力を頂戴したことによる。また大学院生の高田・亀澤両君に、データ収集、整理と入稿から基礎データ台帳の作成を担当してもらい、作業がスムーズに進んだ。ここに記して上記の方々に篤く感謝の意を表したい。初年度から本年度までの成果を踏まえ、次年度以降さらに充実した調査研究になるように継続して努力していきたい。(2011・1・20)

① 「空生大覚中如海一漚発」について、文殊菩薩の数句の偈語に、修行する人との共同の会得、頓悟、理解について次のようにある。「覚海性澄圓，圓澄覚元妙。元明照生所，所立照性亡。迷妄有虚空，依空立世界。想澄成国土，知覚乃衆生。空生大覚中，如海一漚発。有漏微塵国，皆依空所生。沍灭空本無，況復諸三有。帰元性無二，方便有多門。聖性無不通，順逆皆方便。初心入三昧，遲速不同倫。此方真教体，清浄在音聞。欲取三摩提，実以

聞中入。大衆及阿難，旋汝倒聞機，反聞聞自性，性成無上道，圓通實如是。此是微塵佛，一路涅槃門。過去諸如來，斯門已成就。現在諸菩薩，今各入圓明。未來修學人，當依如是法。我亦從中証，非惟觀世音。誠如佛世尊，詢我諸方便。以救諸末劫，求出世間人。成就涅槃心，觀世音為最。」

- ② 年度別で言えば、平成20年度71点、平成21年度39点、平成22年度47点で合計157点になる。書跡別で言えば、「日本書跡」は、平成20年度52点、平成21年度26点、平成22年度35点で合計113点、「中国書跡」は平成20年度19点、平成21年度13点、平成22年度12点で合計44点を数える。表にすると下記の通りである。

アメリカ収蔵書跡調査年度	日本書跡	中国書跡	総計
平成20年度（2008）	52	19	71
平成21年度（2009）	26	13	39
平成22年度（2010）	35	12	47
書跡小計	113	44	157

なおフリーアの宋拓『淳化閣帖』については、平成21年度1点（4冊）、平成22年度1点（5冊）としてカウントしている。もし一書跡と見なすならばマイナス1点、9冊を別々の書跡と数えるならばプラス7点の計算になるが、現時点ではそのままにしてある。さらに平成20年度報告書の後水尾天皇B081-J007、王猷之F081-C005と、平成21年度報告書の梁川星巖F082-J016のようにダブルカウントした書跡があるが、それもそのままにしてある。またバーネット&ブルートの表記は、バーネット&パートにすべきであろうが、そのままにしてある。以上は最終年度に統一する予定であることをお断りしておきたい。

調査実施美術館別に集計すると下記ようになる。

アメリカ収蔵書跡調査実施美術館	平成20年度 日本／中国	平成21年度 日本／中国	平成22年度 日本／中国	美術館別計 日本／中国
B バーネットコレクション	7／0	—	10／1	17／1
M ボストン美術館	15／0	15／0	—	30／0
F フリーア・ギャラリー	9／5 20／0	0／13	10／5	39／23
SE シアトル美術館	1／14	11／0	—	12／14
H ハーバード大学美術館	—	—	15／6	15／6
年度別書跡小計	52／19	26／13	35／12	113／44